



計画から 成果まで： AI主導サステナビリティの実践

グローバル・サステナビリティ・バロメーター

主な調査結果（日本）

2025年11月

協賛：

kyndryl™



Microsoft





日本

年六月吉日建之

十五年五月吉日建之

十一年五月吉日建之

成十七年八月吉日建之

平成二十四年五月吉日建之

平成二十六年二月初午建之

平成二十六年八月吉日建之

平成十六年九月吉日建之

平成二十年七月吉日建之

平成十八年三月吉日建之

平成十九年七月吉日建之

和歌山市... 津田産業 津田幸也

板井市... 津田産業 津田幸也

松本市... 津田産業 津田幸也

愛知縣丹羽郡... 津田産業 津田幸也

東京 築谷裕之 清野貴輝 齋藤卓

松本市... 津田産業 津田幸也

愛知縣豊田... 津田産業 津田幸也

神戶市... 津田産業 津田幸也

河野 政子

京の豊 中村公文郎商店 中村文彦・与志

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ 政野正昭

岐阜市 株J-PLANET 神崎光正・順子

加須市阿良川 松本建設 松本進・恵美

株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己

大阪府松原市 小澤建材工業株 小澤誠二

三重県伊賀市... 小澤誠二

大分府松原市 小澤誠二

京の豊 中村公文郎商店

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ

岐阜市 株J-PLANET

加須市阿良川 松本建設

株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己

大阪府松原市 小澤建材工業株 小澤誠二

三重県伊賀市... 小澤誠二

大分府松原市 小澤誠二

京の豊 中村公文郎商店

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ

岐阜市 株J-PLANET

加須市阿良川 松本建設

株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己

大阪府松原市 小澤建材工業株 小澤誠二

三重県伊賀市... 小澤誠二

大分府松原市 小澤誠二

京の豊 中村公文郎商店

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ

岐阜市 株J-PLANET

加須市阿良川 松本建設

株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己

大阪府松原市 小澤建材工業株 小澤誠二

三重県伊賀市... 小澤誠二

大分府松原市 小澤誠二

京の豊 中村公文郎商店

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ

岐阜市 株J-PLANET

加須市阿良川 松本建設

株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己

大阪府松原市 小澤建材工業株 小澤誠二

三重県伊賀市... 小澤誠二

大分府松原市 小澤誠二

京の豊 中村公文郎商店

一宮市小赤見宇四反田 株マサノ

岐阜市 株J-PLANET

加須市阿良川 松本建設

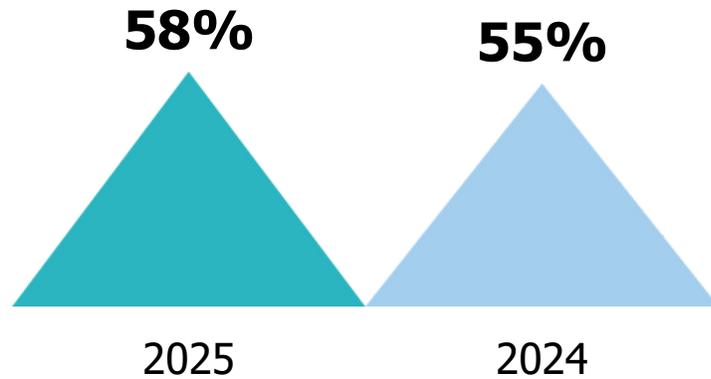
株式会社 ROSNES 代表取締役 山口琢己



主な成果：昨年からの変化

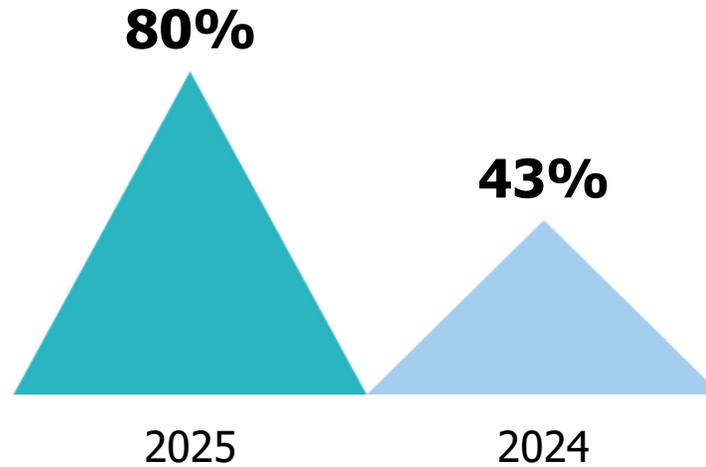
ecosystem.io

環境サステナビリティへの
コミットメントの継続的拡大



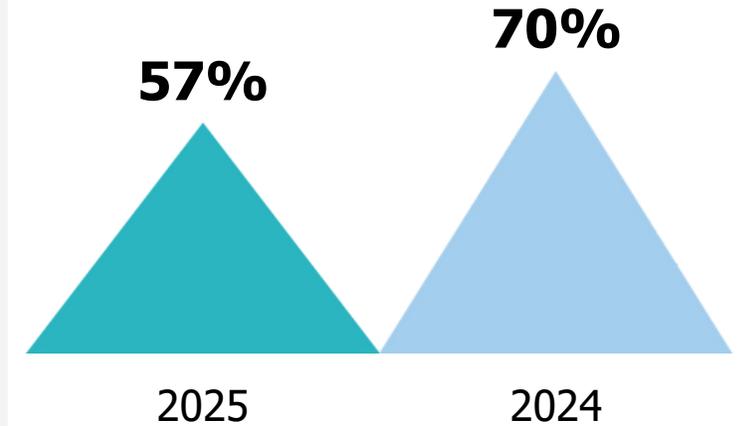
サステナビリティ目標とプログラム実行を維持、または強化

環境サステナビリティに関する役割



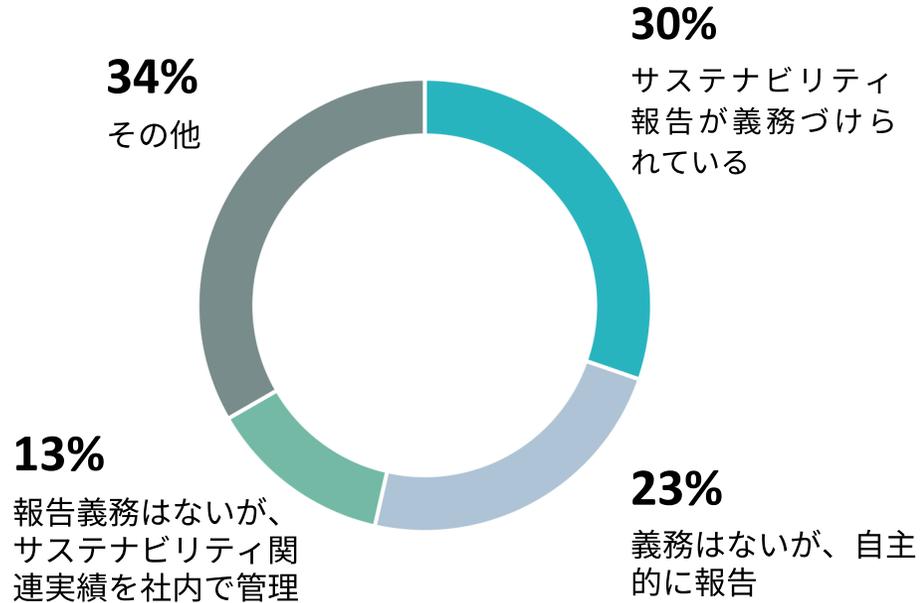
ITチームが、サステナビリティを全社的に推進し、IT部門内にとどまらず展開

自社のAIのカーボンフットプリント
についての認識



組織が、AIの環境面への影響を考慮

サステナビリティ主導の事業モデルにおけるAIの活用



調査対象となった企業の53%が環境サステナビリティの成果を報告しており、そのうち23%は自主的に実施しています。また、別の13%は開示を行わずに内部で成果を監視しています。

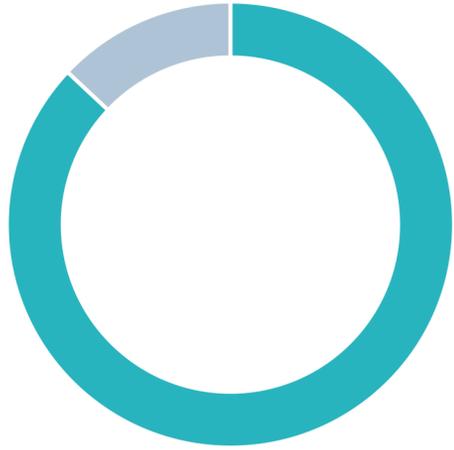
82%

日本では82%の企業は、技術とサステナビリティチームの間に強い連携を報告しています。

それでもわずか44%

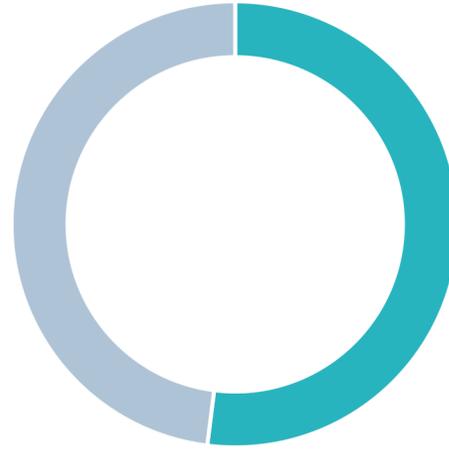
AIを中核的に活用して環境サステナビリティを推進し、意思決定に反映している企業は44%です。

環境サステナビリティの戦略的整合性



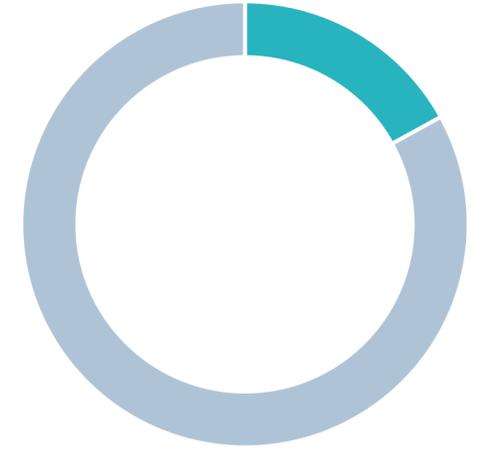
87%

の企業が環境サステナビリティを戦略的最優先事項と評価しています。



52%

の企業が積極的にかつ一貫した取り組みを通じて環境サステナビリティを推進しています。



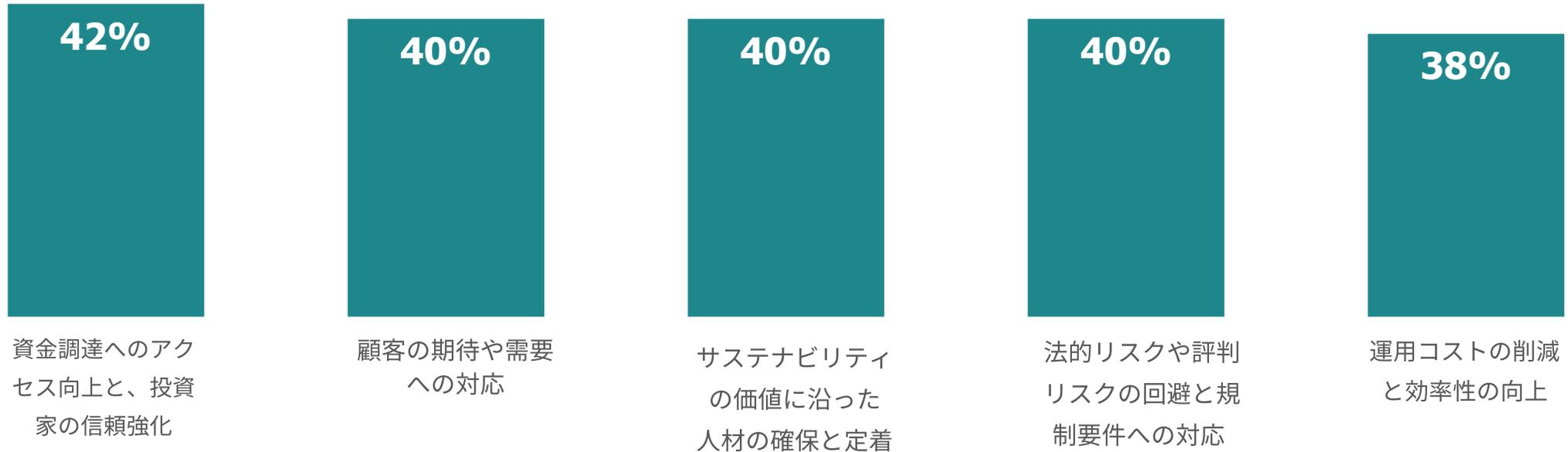
17%

の企業は、イノベーション、コスト削減、長期的なレジリエンスの主要な推進要因として組み込んでいます



インパクト要因#1：ROIと事業価値の可視化

環境サステナビリティ施策の主要推進要因





インパクト要因#1：ROIと事業価値の可視化

43%



の企業は、最大の障壁として、明確な投資収益率（ROI）の欠如と影響の測定の難しさを挙げています。

57%



の昨年環境サステナビリティ施策を加速させた企業は、より強力なビジネスケース、明確なROI、そして新たな収益機会につながりました。



インパクト要因#2：エコシステムとの連携

環境サステナビリティの実行に影響を与える主要なステークホルダー

ecosystem.io

43%



サプライチェーンのパートナー

38%



銀行／クレジット提供事業者

37%



お客様

35%



投資家/株主

32%



保険会社

28%



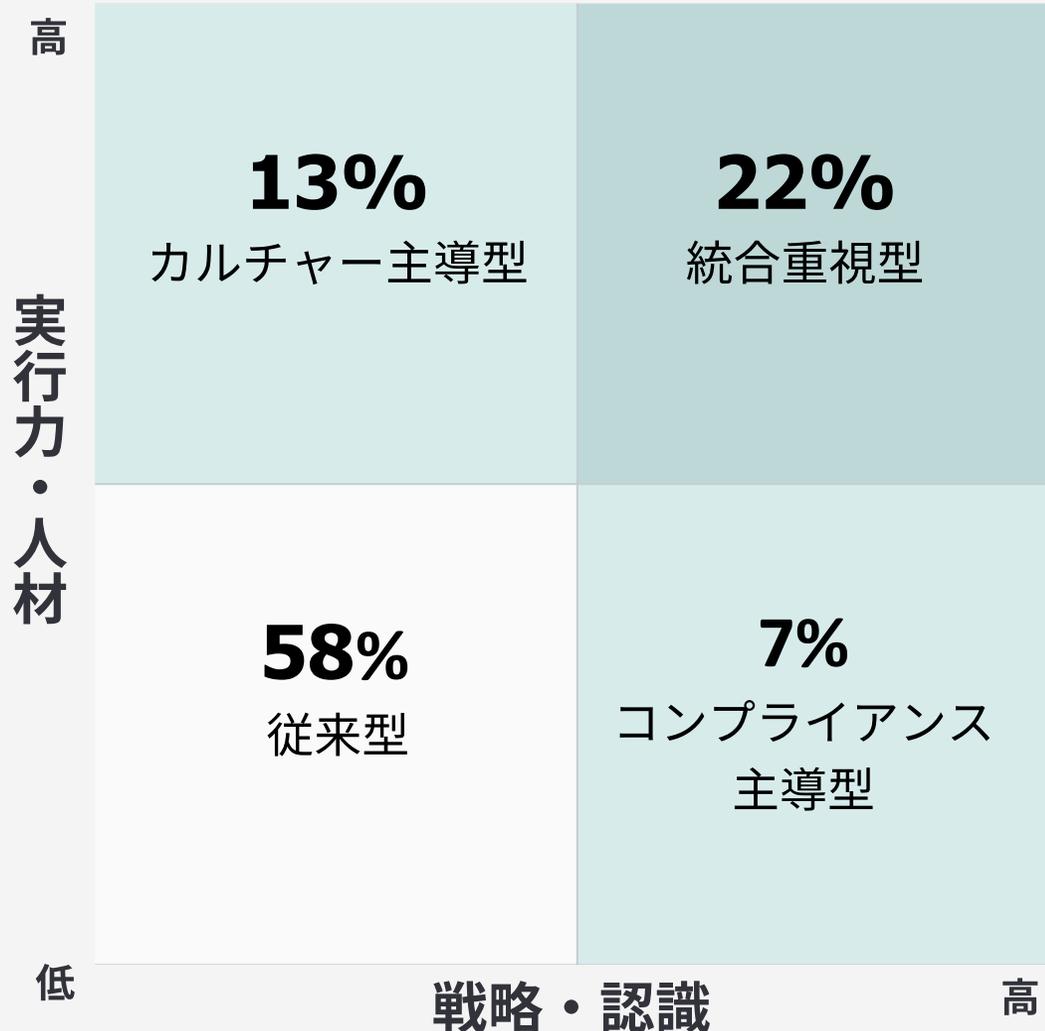
格付け機関

N = 60

Q: 組織内でサステナビリティに関するポリシーと実践を推進する影響力のある上位3名は誰ですか？

戦略と人材の整合性

ecosystem.io



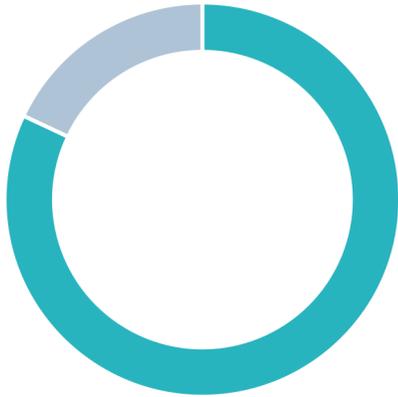
統合重視型：環境サステナビリティは中核事業に組み込まれ、従業員はESG目標に沿って権限を与えられています。戦略と組織文化が相互に補完し、測定可能な事業価値と持続的な効果を生み出します。

カルチャー主導型：人材の取り組みは強いものの、戦略的な整合性は弱い状態です。従業員は環境環境サステナビリティの取り組みに積極的に参加していますが、取り組みが分断されがちで、拡大が難しい場合があります。

コンプライアンス主導型：目標は規制や市場環境によって明確に定義されていますが、取り組みが依然として中央集権的であるため、戦略と実行の間にギャップが生じています。

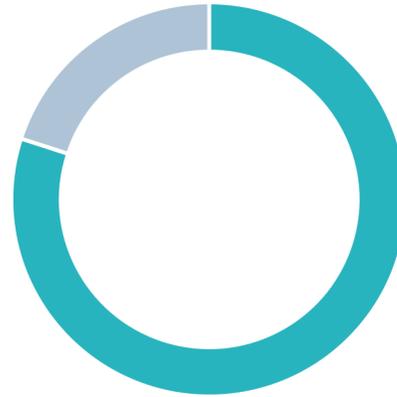
従来型：環境サステナビリティは、周辺的な活動や周辺的な活動やコンプライアンス作業として扱われています。対応は受動的で、従業員の関与は限定的であり、目標は日常業務や組織文化と切り離されたままです。

環境環境サステナビリティ最適化のための技術活用



82%

の企業が環境サステナビリティとITとの間で高い整合性を報告しています。



80%

のテクノロジーチームがより広範なサステナビリティ目標を積極的に支援しています。



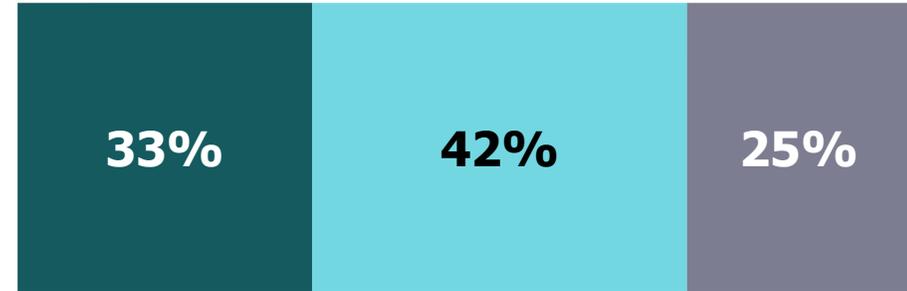
わずか30%

サステナビリティリーダーがITガバナンスに正式な役割を持ち、戦略や投資判断に影響を与えています。

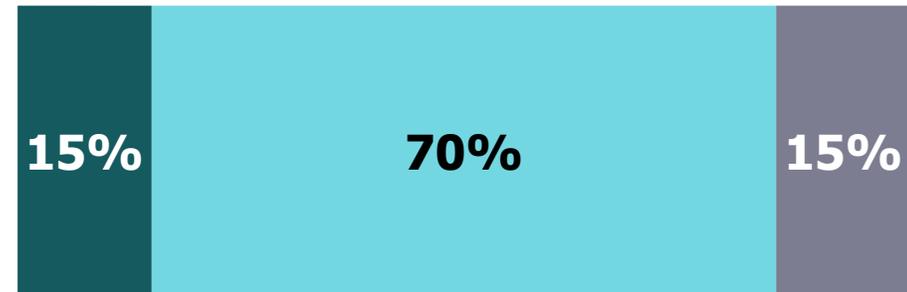
テックレバー#1: モダナイゼーションにサステナビリティを組み込む

技術のモダナイゼーションにおいて、環境環境サステナビリティが後回しとなっている状況

資源効率を高め、環境負荷を低減するデジタルソリューションが、全社のオペレーションにおいて積極的に優先され、必須項目として扱われる状況



環境サステナビリティ基準が明確に重み付けされ、主要なテクノロジー選定およびモダナイゼーションの判断に影響している状況

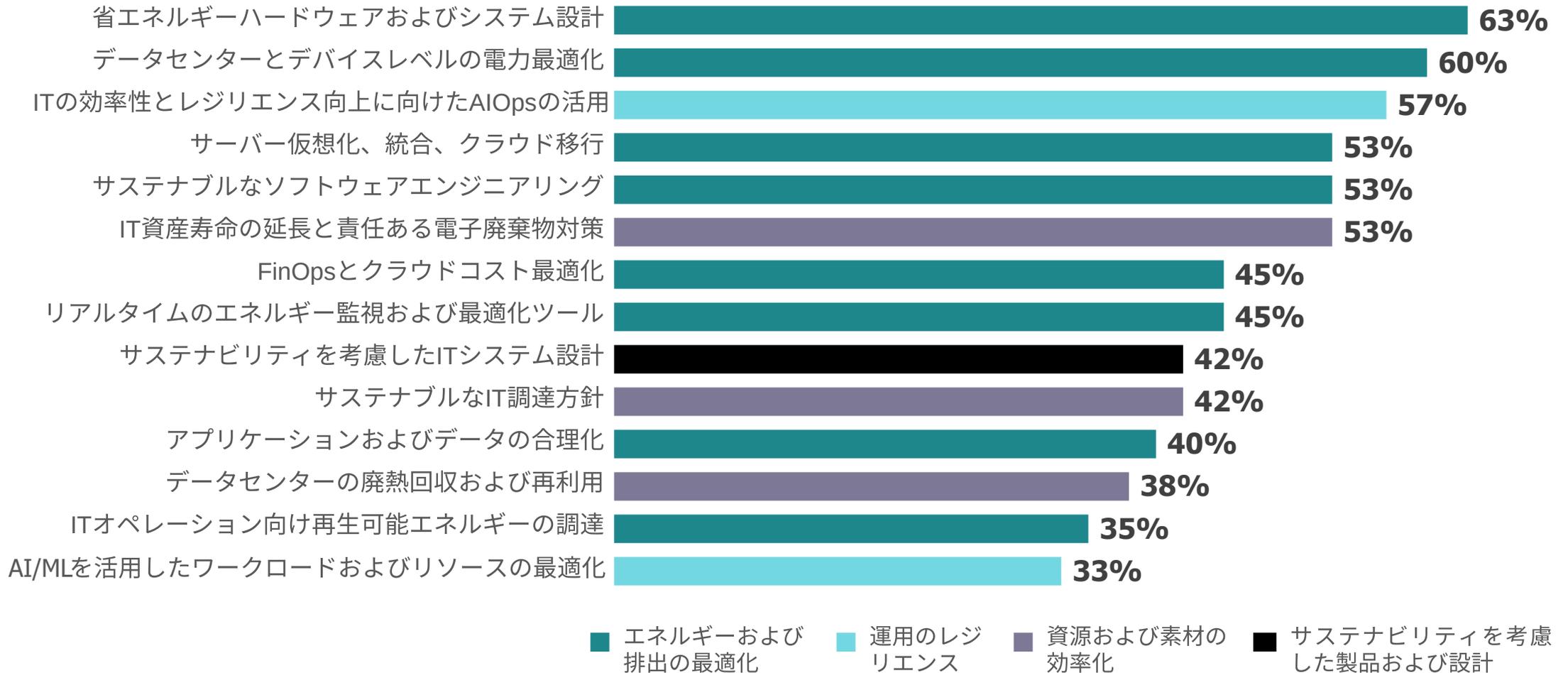


■ 完全に一致 ■ ある程度一致 ■ 全くそうではない



テックレバー#2：エネルギーと排出量を超えた取り組み

カーボン削減に向けたテクノロジー施策はエネルギーと排出量に重点を置く

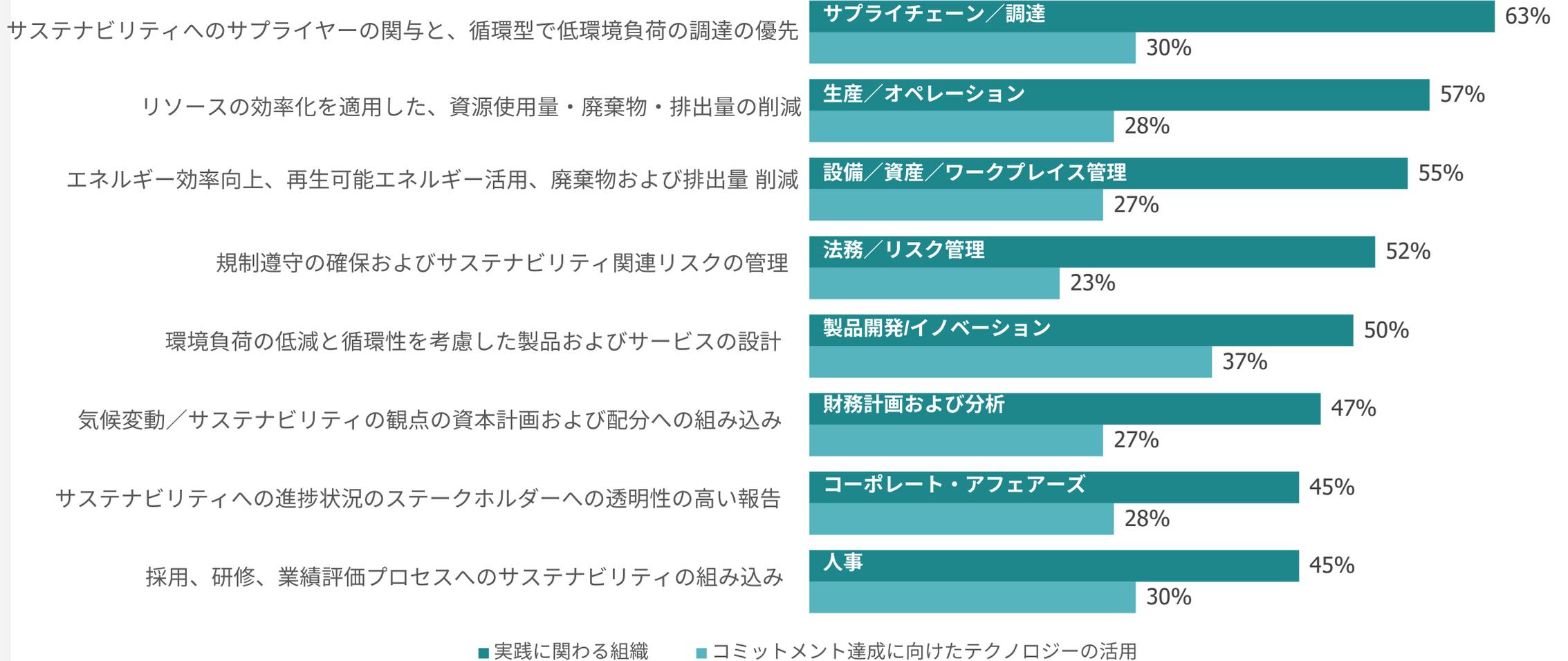


N = 60

Q：御社のIT / テクノロジーチームは、カーボンフットプリント削減のためにどのような取り組みを行っていますか

テックレバー#3：共有可能で測定可能なアプローチの実現

事業部門の環境サステナビリティの取り組みにおいて十分に活用されていないテクノロジー





テックレバー#4：インサイト創出に向けたコアデータの最適化

ほぼ65%



の企業が環境指標を一元的に管理しています

それでもわずか42%



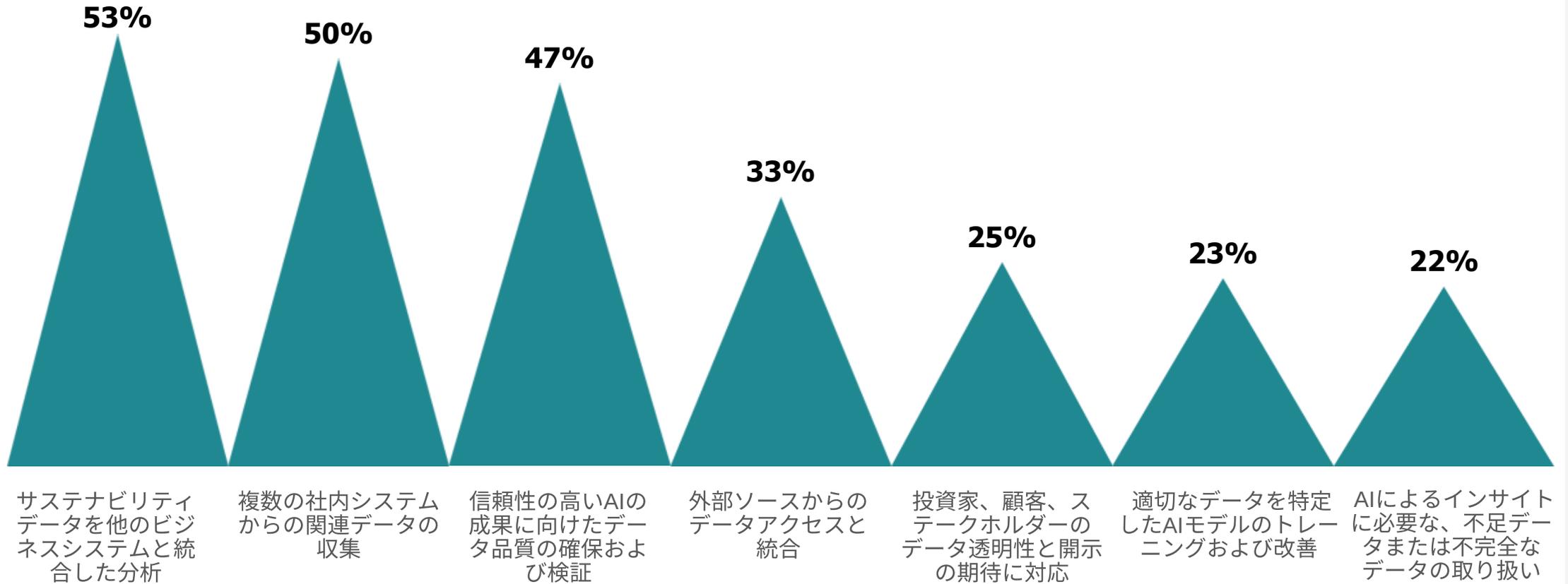
の企業が、このデータを意思決定の指針とし、パフォーマンスの最適化に活用している状況です。残りの企業は、主として報告目的でデータを利用しています



テックレバー#4：インサイト創出に向けたコアデータの最適化

データは依然として環境サステナビリティの主要な障壁

ecosystem.io

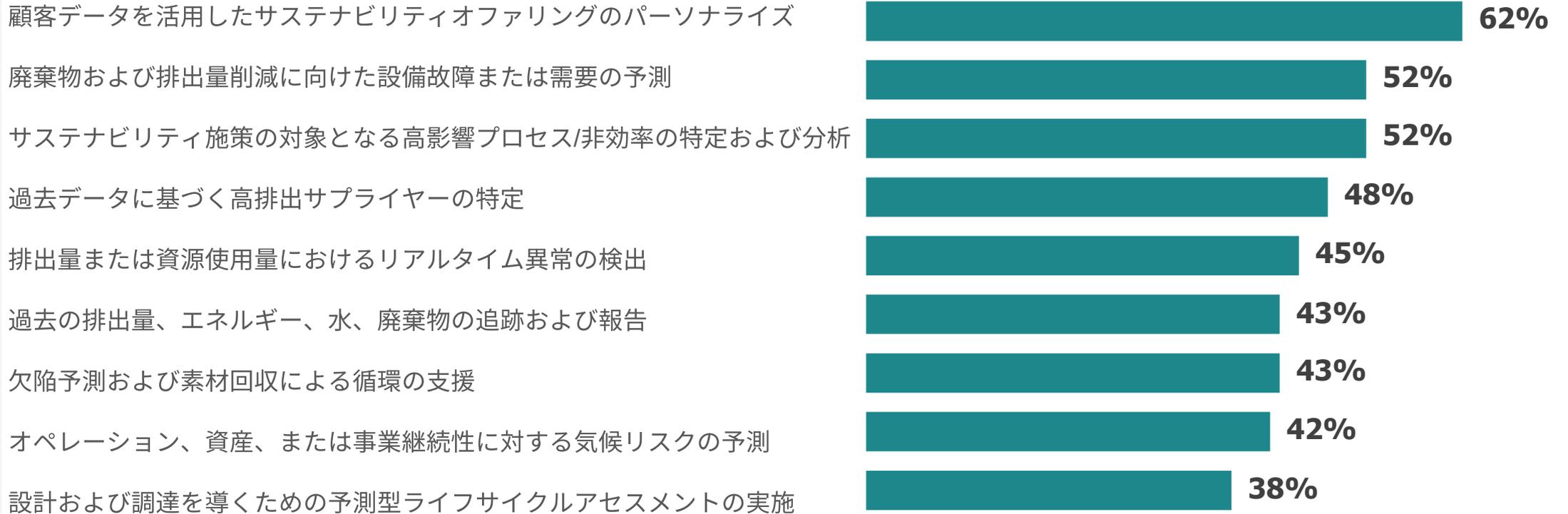


N = 60

Q：御社がAI主導のサステナビリティイニシアチブを支援するためのデータ管理において直面している主な3つの課題は何ですか。

テックレバー#5：AIによる将来リスクの予測

環境サステナビリティに向けた予測型AI

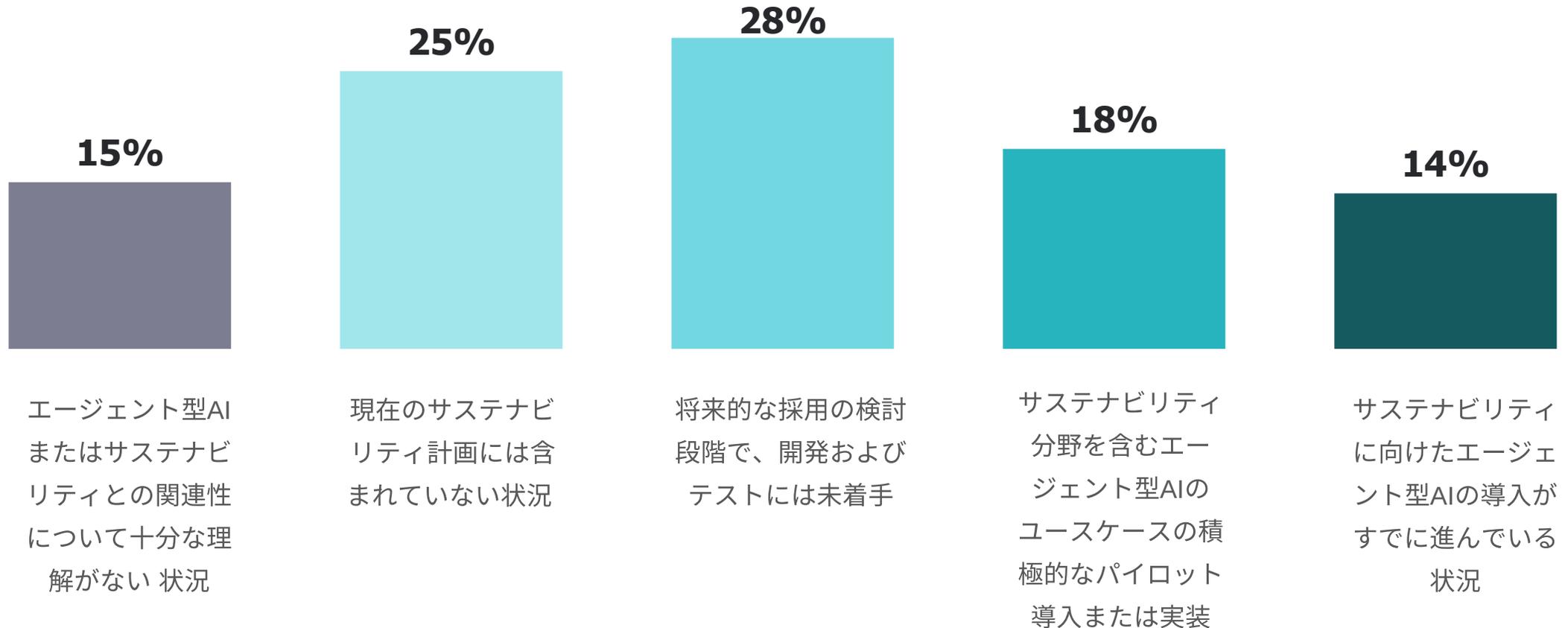


昨年と比べ、将来の影響を見越して資源使用量および排出量を予測する企業は現在32%と減少しており、(42%から低下)、一方で気候リスクの予測に注力する企業は42%と、こちらも48%から低下しています。



テックレバー#6：エージェント型AIによる自律的アクションの実現

エージェント型AIの採用は依然として初期段階



N = 60

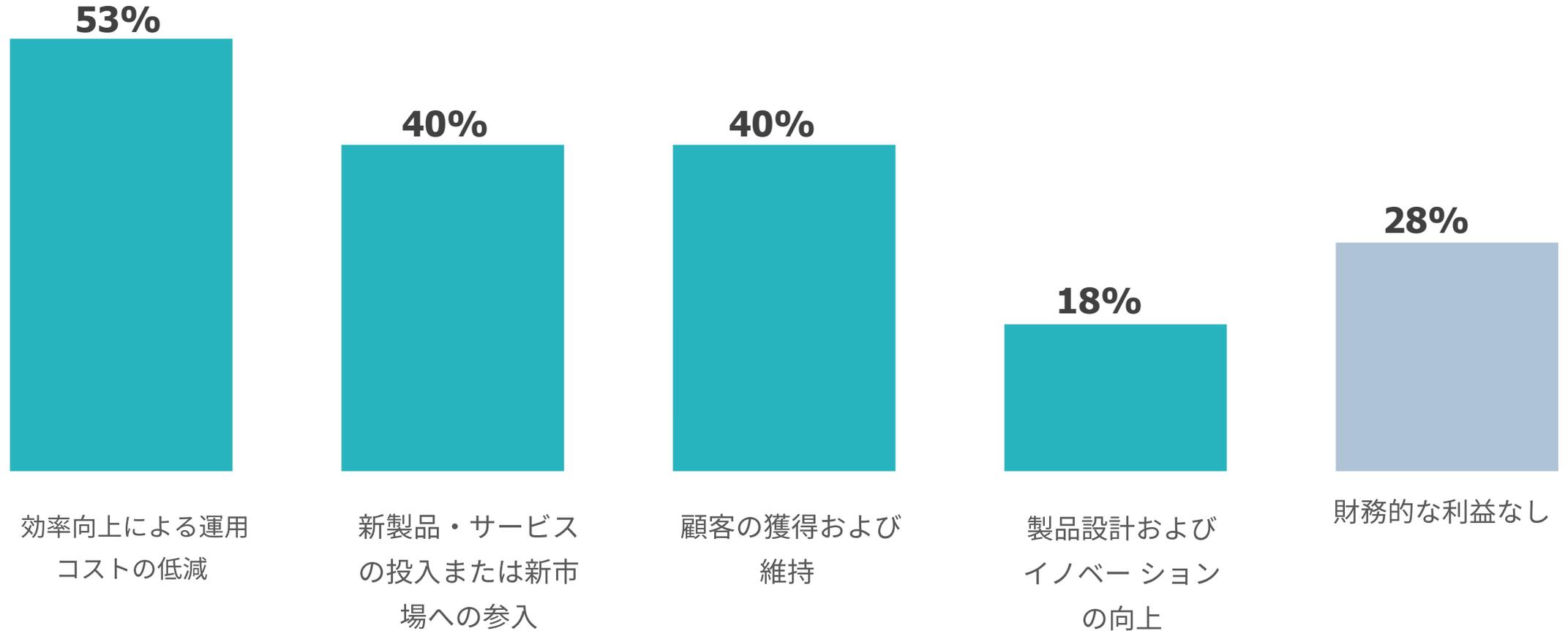
Q：御社では、サステナビリティ成果を支援するためにエージェント型AIを現在どのように活用していますか。



ROIに関するまとめ：早期の成果が持続的な推進力を生む

AIが環境サステナビリティ成果にもたらすと期待される効果

ecosystem.io



N = 60

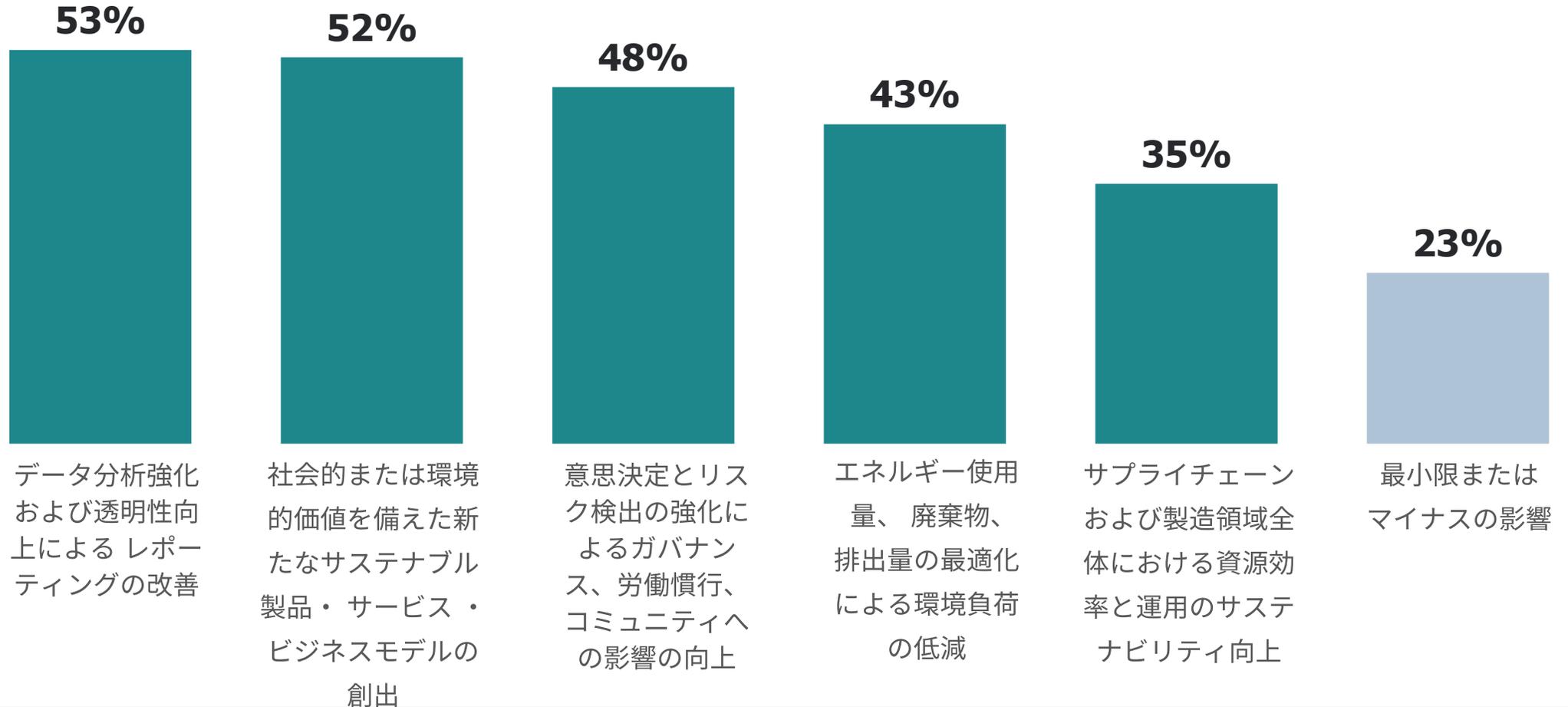
Q：御社のサステナビリティアジェンダはどのように財務的利益を生み出していますか。



ROIに関するまとめ：早期の成果が持続的な推進力を生む

企業が財務的利益を得ている領域

ecosystem.io



N = 60

Q：今後3年間で、AIが御社のサステナビリティ成果に最も大きく影響を与えるのはどのような点だとお考えですか。



ありがとうございます

更なるお問い合わせは、以下までご連絡ください：

Sash Mukherjee

業界インサイト担当バイスプレジデント

sash.mukherjee@ecosystem.io

Ullrich Loeffler

CEO

ullrich@ecosystem.io

